

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(中学校用)

都道府県名

山 口 県

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	大和町立大和中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	1	8	20
生徒数	70	68	88	1	227	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力を保障するための教育活動の構想と展開」
 ~ 「生きる力」を鍛え、真の基礎力を身につけさせるための学び舎づくり ~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

指導者を招聘しての研究会を3回行う。授業研究は全教科行う。

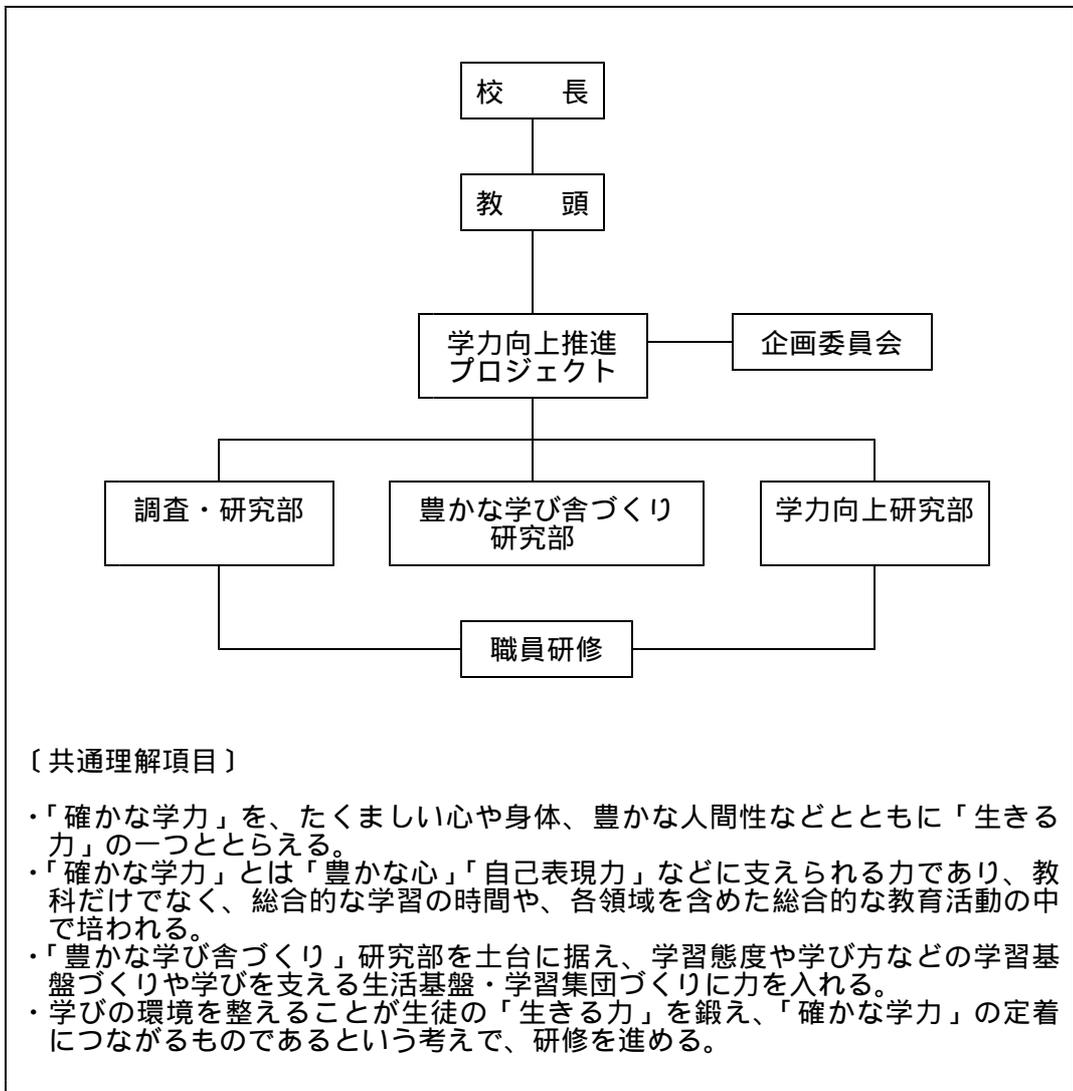
- ・ 2年生・音楽
学習規律が整い、学び舎づくり(授業環境づくり)の実践に工夫がみられるため。
- ・ 3年生・数学
習熟度別による少人数学級の指導が3年目となる。生徒にとって理解度の差が大きいこの教科に対し、指導方法の改善や教材の工夫に取り組んでいるため。
- ・ 2年生・英語
習熟度別による少人数学級の指導が2年目となる。ALTとの会話やワークシートの活用など苦手意識をなくすための工夫がなされ、個に応じた指導に取り組んでいるため。
- ・ その他の教科
つけたい力を明確にし、評価を指導に生かす授業が展開できるようにするため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形成的評価を取り入れた授業改善 ・ 学習基盤を育てる学び舎づくりの研究 <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形成的評価の基本である「観察」の方法を取り入れ、指導方法の修正を行いながら個への手だてを行っていくことが、生徒に「確かな学力」を保障することにつながっていくと思われる。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価に対する研修を行い、共通認識を持つ。 ・ つけたい力(評価規準)を明確にし、評価場面や評価方法を意識した授業を実践する。 ・ 授業改善のために、教材の開発、指導形態の工夫に取り組み、生徒による授業評価を取り入れる。
--------	--

平成 16 年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つけない力（評価規準）の明確化と指導と評価についての研究 ・学習基盤を育てる学び舎づくりの研究 <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に多くある評価場面を明確にし、多様な評価方法を用いることで個への指導が充実し、生徒に「確かな学力」を保障することにつながっていくと思われる。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つけない力（評価規準）、評価場面、評価方法を明確にした授業を実践する。 ・授業改善のために、教材の開発、指導形態の工夫に取り組む。 ・様々な評価方法を取り入れる。 ・生徒による授業評価によるデータから得たものを授業改善に生かす。 ・学習基盤づくりを共通理解のもとに行う。
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- (1) 教師間の「評価」に対する共通認識ができた。
- ・評価のためには観点が必要であることを再認識し、形成的評価を指導の改善に生かそうとするようになった。
 - ・授業の中でねらいを明確にし、評価しようとするものを絞れるようになった。
 - ・形成的評価の中でも「観察」によって手だてを考え、個を生かす指導をきめ細かに行うようになった。
 - ・評価場面や評価方法を明確にして問題解決的な授業を仕組もうとするようになった。
- (2) 個に応じた教材の開発に取り組むようになった。
- 数学科 課題学習「魔法陣」
- ・数学に対する理解度は、生徒によって大きな差があるため、クイズ的な要素がある教材で、学習意欲を高めながら学習し課題を解決する過程を通して、数学の有用性を感じ取ることができた。
 - ・T.Tの形を取ることで、個に応じたアドバイスができ、わからない生徒には手がかりを与えることができた。
 - ・ワークシートの工夫により、できる生徒は次々と課題に挑戦していくことができた。
 - ・机間支援による観察で授業の流れを修正しながら進めることができた。
- (3) 指導方法・指導体制の工夫に取り組むようになった。
- 英語科 習熟度別少人数による指導（基礎コース・発展コース）
- 〔基礎コース〕
- ・反復学習を重視し、学習事項の確実な定着を図る。
 - ・ワークシートを使って生徒一人一人の理解度を把握する。
 - ・ペアでの活動により苦手意識を和らげ、安心して学習できる環境をつくる。
- 〔発展コース〕
- ・学習したことを生かす喜びを味わわせるために、ALTと気軽に話せる場を設定する。
 - ・生徒一人一人が自信を持ってスピーチできるよう、まずグループで発表させたのち全体の前で発表させる。
 - ・個人カルテを活用し、個に応じた指導を行う。などを実践することができた。
- (4) 生徒による授業評価を実施し、授業を振り返るきっかけができた。
- ・2学期末に各教科共通の項目で生徒による授業評価を実施することで、授業を振り返ることができた。
 - ・授業内容・授業方法・学習規律などを10の項目にしてアンケートをとることで生徒の受け取り方が理解できた。
 - ・評価は「よくあてはまる」から「ほとんどあてはまらない」までのA・B・C・Dの4段階で点数化し、レーダーチャートで示すことで内容をより明確にできた。
 - ・数値の低いところを反省材料として、授業改善への手だてとなった。
- (5) 「学び舎づくり」の視点で全教育活動をとらえ直すことができた。
- ・生徒会活動が「生きる力」を鍛える場として果たす役割について、再認識することができた。ねらいにもとづいた計画・実践・振り返りによる評価・来年度への改善、つまりP（プラン）D（ドゥ）C（チェック）A（アクション）という評価システムが確立されていることが意義ある活動として続いている大きな理由であることが再認識できた。
 - ・他の活動も、ねらいと観点を明確にして行うことで改善につながっていくことが認識できた。

2. 今後の課題

- ・「つきたい力」を各教科、その他の活動においてさらに明確にしていく。
- ・指導と評価のあり方についてさらに研究を進め、指導の改善に生かしていく。
- ・生徒による授業評価を今後の授業改善に生かす。
- ・町内4つの小学校との連携をさらに強め、連続性のある指導をしていく。
- ・郡内の中学校との連携を密にしていくことで、指導と評価の在り方について研究していく。

学力把握のための学校としての取組

- ・平成16年2月4日、1年生を対象に5教科の学力検査(CRT)を実施した。通過率や達成率を全国平均と比較し、指導に生かしていきたい。
- ・1年後に同じテストを実施する予定である。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成16年1月26日、本校で行われた柳井管内学力向上フロンティア事業地区協議会において、英語科の少人数による授業を公開した。
- ・研究発表において、1年間の本校の取り組みを発表した。
- ・年度末に、研究の経過を研究集録にまとめ、管内の中学校に配布する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無